

（午後5時5分 再開）

議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番17、7番 清水信弘君。

〔7番（清水信弘君）登壇〕

7番（清水信弘君）議長のお許しをいただきます。演壇より始めたいと思います。

早稲田の田植えは既に終わった模様です。それを喜ぶ水田の蛙の声が深夜天に聞こえる雨の季節になりました。

これより一般質問を行います。

合併後の我が市の財政状況は大変な危機にあり、その責任が旧高野口にあると言わんがごとき風潮が橋本市庁舎及び市民にあると聞き、それはある種福祉における利益はあるにしても、名前をなくし、役場をなくしてまで合併に賛成した旧高野口町民を愚弄しているとしたかと思えず、この質問席に立っております。

すなわち、大きなまち、小さなまちの合併としては、大きなまちの態度として適当と感じられないものがあるかと思われまます。高野口側が至らない点もあるでしょう。しかし、それを高野口がよくないのだと言ってしまうと、旧町民もすべて含むこととなります。その責任はどこにあるのか。それをまず発してから批判なりを試みていただきたいと思えます。

合併前、住民説明会では、この財政危機を切り抜けるには合併以外に道はない。合併すれば有利な特例債や、交付税の減額もなく、安定した財政運営が期待できると辻本町長及び助役はしきりに説明してまいりました。それは旧橋本市長も同様であろうし、県の市町

村課長からも聞きました。

合併協議会で示された合併後の財政シミュレーションでも、それなりの事業をしながらでも、理想に近い財政運営が描かれていたことは記憶に新しいところであります。

ところが合併後、木下新市長になって、この6月議会で本格的な予算を編成するにあたり、既に40億円足りないのだと、大変な財政状況にあると聞いて、橋本市庁舎より半径7km以内に行政範囲が収まり行政効率がよい、辻本町長の言う高野口町はインフラ整備がほとんど終わっており、合併のパートナーとして理想的だという合併はどこへ行ってしまったのでしょうか。

橋本市幹部は、高野口町が合併前に多数の駆け込み事業をしたためだと言っているようですが、旧高野口町長は、リコールの最中、リコール趣旨の一つのむちゃ遣いが過ぎることに対し、財政調整基金は私の町長就任時より2億4,000万円も多いため。町の負債は15億円減らしたと、大変優良な公共団体だということを吹聴し、それならば、なぜ財政がもたないから合併しなければならないと力説したのか理由がわかりませんが、百歩譲ってそのとおりだったとして、その基金等がこの合併までに使い果たされたということであれば、リコール逃れのためにばらまいたとは思えないのではないのでしょうか。

事実、私は高野口12月議会に上程された高野口の補正予算など、こんな使い方はおかしいと清原助役に申し上げました。

こうした事実は事実として、橋本市の言うごとく、新橋本市の予算が組めないのはすべて高野口の責任でしょうか。万一そうだとす

れば、この責任はだれがとるのでしょうか。それを全市民に市長より発していただきたいと思ひます。

さらに、高野口自体合併しなければできない事業が山とあるなどと言っていると聞くに及んで、その意図たるは那邊にありやと問ひたい。これも大きなまちの態度としては、すなわち褒められない。さすれば、橋本市は合併なしに単独でできる事業ばかりだったのでしょうか。これから行われる高野口側提案の事業、合併せずともやっけていける事業ばかりの橋本側の事業を旧高野口町民にわかりやすくお示しいたきたい。

閑話休題。財政の本論に戻り、現実論として、高野口の財政調整基金の払底は事実と認め、本市の財政危機は明白、これをいかに改めるかにかかっていると思ひれます。

ただ、旧橋本市に高野口町をくっつけてやただけという、昨日の同僚議員の質問で明らかになった残業代もそのままよしとする旧態依然の行政では、さらに重大な財政状況に陥ることは必定。聞けば、今年も旧橋本市の基金を取り崩し、何とか予算化できたが、来年はその組成さえできないとのこと、本当にそうなのでしょう。

私の感覚は、庁内にその雰囲気は感じられません。小手先の行革などでは到底焼け石に水、漠然たる対策でなく、効果的かつ大胆な改革の提起があるのか、それをどうつくり上げていくのかお伺ひしたい。

最後に、この合併を通して、両市町とも、今、お互いえらい目に合うてしもうたとしか考えられていないように思ひれます。国策のさらなる合併、知事の唱える合併の勧告、我が地にとっては伊都、橋本ということになろうと思ひますが、その勧告が発せられたとして、その後、この合併を通してこの現実を見た場合、我が市、他町にその勧告が果たし

て有効に機能すると思ひれるかお伺ひしたい。

以下、議席に譲り、通告書にあるとおり1、8の順に答弁願ひたいと思ひます。

以上、演壇より、終わります。

議長（上田順康君）7番 清水信弘君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）清水議員のご質問にお答えをいたします。

1番目のご質問につきましては、確かに今議会に上程をさせていただいております平成18年度予算案につきましては、大変難産でございまして、歳入面では、地方交付税の落ち込み、税収も想定していたほど伸びておりません。

歳出面では、広域ごみ処理施設建設負担金や地元条件周辺整備事業、市民病院への繰出金などの経費が増大するとともに、新橋本市の均衡ある発展のため、行政全般にわたり多額の経費が必要となりました。

2番目の、旧高野口町の財政運営のご質問についてでございますが、旧高野口町という一つの独立した地方公共団体での問題であり、旧町当局と議会の中で十分ご審議いただいたものと拝察いたしますので、答弁は差し控えさせていただきます。

3番目から6番目の旧高野口町における駆け込み事業等々という市幹部の発言を前提としてのご質問につきましては、前提となる発言自体を確認していませんので、答弁は慎みたいと思ひますので、ご了承をいただきますよう、よろしくお願ひをいたします。

7番目の、来年度の予算編成に対するご質問につきましては、現在、橋本市行政改革大綱の策定及び橋本市集中改革プランの策定、公表に向けて取り組んでおります。

集中改革プランにおいては、本年11月に市

民にわかりやすく公表する予定となっておりますが、これは平成19年度予算に反映させるためのものがございます。現在の進捗状況は、今月1日に開催されました橋本市行政改革推進懇話会において、行政改革大綱の策定に向けて、各方面を代表する方々からのご意見をいただいております。

また、市内部におきましても、行政改革推進本部を中心として、11月までという限られた期間の中で、行政改革大綱の策定及び集中改革プランの策定、公表を行うために協議を重ねているところでございます。

8番目の、第2次合併に関するご質問でございますが、14番議員にもお答えしたとおり、和歌山県では、新法下の合併推進構想を策定し、対象市町村の組み合わせを公表していますが、旧橋本市と旧高野口町が合併して新市のまちづくりがスタートしたばかりでございます。現時点で新たな合併については全く白紙の状態でございます。しかしながら、21世紀は地方の時代と言われるように、今後、これまで以上に市町村の果たす役割が大変重要となる中、その時代の要請を十分見極めていく必要があると考えてございます。

以上で答弁とさせていただきます。

議長（上田順康君）7番 清水君、再質問ありますか。

7番、清水君。

7番（清水信弘君）質問に行き詰まったときは、切り口を変えてやってみるとよく言われるんです。私はお粗末な刀1本しか持っておりませんのでね、ちょっとほかから借りてきて、一度それを試みたいと思いますので。

清原助役にちょっとお伺いしたいと思えます。

助役にお伺いしたい。

昨日、高野口の同僚議員が盛んに役場を残すことに対して合併協議の中で激しい議論が

あり、行政サービスを落とさないために福祉施設を兼ねた公民館を建設することでやっと合意に達したと言われておりました。しかし、その施設にふるまで設備しようというに及んでは、何が合理化のための合併かと、私個人的にはその施設には賛成しかねております。

また、今でさえ行政サービスが落ちたことは明白で、それが来年出張所でさえなくなります。この施設ができたとして、これが著しい行政サービスを落とさせないものの、防波堤になるものでありましょか。行政サービスと福祉サービスをすりかえただけではないのでしょうか。行政サービスを著しく落とさないためには、役場をそのまま置いておけば済んだだけの話で、このようなぜいたく施設を建てることの議論など必要なかったのではないのでしょうか。なぜ役場をなくすことから合併協議を始めなければならなかったのでしょうか、不思議でなりません。

吸収合併の花園村にさえ役場をそのままにしているという議論に、辻本さんは、かつらぎ町から花園は遠いということでありました。なるほどそのとおりでありましょ。この高野口橋本の合併は、半径7km圏内におさまり、いかに効率よいかをじゅんじゅんと説いておりましたが、私が高野口役場・橋本市役所間の距離を自動車メーター読みで調べたところ、5.6kmでありました。紀ノ川市が気になり、各庁舎間の距離を聞いてみました。打田本所より貴志川11.7km、那賀8km、桃山6km、粉川5.2kmであり、先日訪れた淡路島の南淡路市は本所から最短庁舎までは2.2kmとのことでありました。

第2次合併に進むにあたり、この高野口庁舎をなくしたことが各自治体に影響を与えるとは思われませんか。各自治体にそのまま役場を残すとしたら、高野口町民をこれほど愚弄した話もまたないと思えます。い

かが思われますでしょうか。

議長(上田順康君)清水君に申し上げます。

ただ今の発言はどの通告に何していますか。

7番 清水君。

7番(清水信弘君)8番に十分関連していると思うんですけども。答えられないものでありましょか。

議長(上田順康君)これは、ちょっとそない理解できませんのやけど。8番。

(「一般質問というのは関連というのはないやろうが。なかったらないでええやな。取り消したらええがな」と呼ぶ者あり)

(「やっぱりきちっと答えたれよ」と呼ぶ者あり)

(「関連ないねんやろが、関連なかったら一般質問する必要ないやろ。却下したらええがな」と呼ぶ者あり)

(「議長、はっきりしてくださいよ。通告外はきちっとやっぱり整理する必要があるねんから」と呼ぶ者あり)

(「関連なかったら、これは関連につきませんと言うたらええねんや」と呼ぶ者あり)

議長(上田順康君)通告に基づいて質問を願います。

7番(清水信弘君)わかりました。そして、最後に申し上げたいことだけ言わせていただきたいと思います。質問ではありません。

(発言する者多し)

7番(清水信弘君)皆さん、ほんでも最後に答弁要らないと言っているじゃないですか。

(「要望や」と呼ぶ者あり)

(「要望やったらええけど」と呼ぶ者あり)

(「要望で質問せえ」と呼ぶ者あり)

7番(清水信弘君)要望です。要望を申し

たいと思います。

和歌山県下でつとに有名になられた市町村課の合併の坂越課長を個人的に訪れたことがありました。その席で私は、特例債はプラズマテレビだという論を展開いたしました。あなたの家とあなたの家、結婚しなさいよ。そうすれば100万円もするプラズマテレビを7割引の30万円で売って上げますよと言うだけで、不急不要のものを買わせて、新たに借金をつくるだけではないのかと申し上げました。

課長は、清水さん、それは違う。特例債は最新式の冷蔵庫だ、最新式の掃除機だ、最新式の炊飯器だ、どれもみんな必需品だ。みんな欲しいものでしょうと反論され、思わず、さすがキャリアの官僚はうまいこと言うわと感しましたが、これとて、古くても日本中の家がない家は少ない、プラズマテレビと変わるところはないと思ったのは帰りの車の中でありました。

きのう、当局のどなたでありましたでしょうか。特例債は合併した自治体にとってはあめとむち、しなかった自治体にとってはむちの二乗というコメントをなされておられました。このように毛針としか見えなくなってきた特例債に飛びついて、合併初年度から予算が組めないなどという当自治体となど合併をしようという他町が果たして現れるか見ものだと思えます。

しかし、翻って、我が市と強制的にどこかの自治体が合併させられることになったといたしましよ。その中で行われる合併協議は、特例債に頼らない、本当に市民、町民の安寧を考慮、行政のスリム化など、合併の本来の姿を追い求めることになると思えます。

この現状、不満極まる合併がそのための大きな礎であらんことを祈って、質問を終わります。

以上、終わります。

議長(上田順康君)これをもって、7番 清水信弘君の一般質問は終わりました。

---

議長(上田順康君)お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会し、明6月14日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(上田順康君)ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

(午後5時25分 延会)